

在セネガル日本国大使館月報

2026年5月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 22日、ファイ大統領はソンコ首相の解任と内閣解散を発表。
- 24日、ンジャイ元国民議会議長が同職からの辞任を発表。
- 25日、ファイ大統領はロー新首相を任命。
- 26日、臨時国民議会が招集され、ソンコ元首相の議員復帰の承認を確認し、選挙によりソンコ元首相が新国民議会議長に選出。

(外政)

- 11日から13日にかけて、ファイ大統領はケニアで実施された仏アフリカサミット「アフリカ・フォワード」に出席。
- 31日、ジョップ国防大臣をECOWAS委員会委員長として推薦することを発表。

(経済)

- 22日、ディバ財務・予算大臣は、6月8日の週にIMFとの実務協議を再開し、6月30日までに重要ポイントの合意に達することを目指すことを公表。
- 26日、ソンコ元首相解任後の一連の動きを受け、セネガルの外貨建て国債が急落。

カーボベルデ

- 17日、国民議会選挙が実施された。
- 29日、CNEが国民議会選挙の最終結果を発表。PAICV37議席で第1党となった。MpDは33議席、UCIDは2議席獲得。

ガンビア

- 30日、ファイ・セネガル大統領がガンビアを公式訪問、バロウ大統領と会談を実施。

ギニアビサウ

- 20日、ンタ暫定大統領は、相次ぐ教員ストライキの対応不足等を理由にバジ国民教育・高等教育・科学研究大臣を解任し、新たにバンジャイ新大臣を任命。
- 26日、ンタ暫定大統領は閣僚数人(外務・国際協力・共同体大臣、法務・人権大臣、環境・生物多様性・気候変動対策担当大臣、国際協力担当国務長官)を刷新。

セネガル

(出典は Le Soleil 紙、RFI、大統領府 HP、セネガル外務省 HP、APS、Jeune Afrique、ロイター、Sika Finance。)

(内政)

内政一般

- 2日、ファイ大統領が大統領府でメディアとの記者インタビューを実施。

- 9日、ンブールにてジョマイ大統領連合の大集会を開催。
- 15日、大統領から議会へ差し戻された後に再可決された選挙法改正案が公布された。
- 21日、ファイ大統領は国民対話の日の一環として元首相のシェイク・アギブー・スマレ氏、アブドゥル・ンバイ氏、アミナタ・トゥーレ氏、アマドゥ・バ氏、シディキ・カバ氏、ママドゥ・ラミン・ルーム氏と面会。イドリサ・セック氏は招待を辞退。
- 22日から26日にかけて、ファイ大統領は国民対話の一環として元財務大臣(アマドゥ・カン氏、アブドゥライ・ダウダ・ジャロ氏)および元内務大臣(アンドレ・ソンコ氏、ウスマン・ンゴム氏、シェフ・ティジャン・シー氏、ンバイ・ンジャイ氏、アリ・ンゲイユ・ンジャイ氏、アントワン・フェリック・ス・ジヨム氏、パテ・セック氏)、ムハマドゥ・マクトル・シセ国家総監、元内務大臣らと面会。
- 22日、ファイ大統領はソンコ首相の解任と内閣解散を発表。
- 24日、ンジャイ元国民議会議長が同職からの辞任を発表。
- 25日、ファイ大統領はロー新首相を任命。
- 26日、臨時国民議会が招集され、ソンコ元首相の議員復帰の承認を確認し、選挙によりソンコ元首相が新国民議会議長に選出。

(外政)

二国間・多国間関係

- 11日から13日にかけて、ファイ大統領はケニアで実施された仏アフリカサミット「アフリカ・フォワード」に出席。
- 18日から20日にかけて、ダカールにてフランコフォニー議会(APF)の第32回アフリカ地域総会が開催。ンジャイ・セネガル国民議会議長(当時)がフランコフォニー議会のアフリカ部門議長に選出。
- 30日、ファイ大統領はガンビアを公式訪問。バロウ大統領と面会し、二国間関係の強化および両国間の協力の展望について協議。
- 31日、ジョップ国防大臣をECOWAS委員会委員長として推薦することを発表。

(経済)

経済一般

- 10日から12日、プラスチック条約交渉に係る第2回非公式少数国会合を開催。
- 12日から13日、アフリカ・エネルギー・石油国際見本市を開催。
- 22日、ディバ財務・予算大臣は、6月8日の週にIMFとの実務協議を再開し、6月30日までに重要ポイントの合意に達することを目指すことを公表。
- 26日、ソンコ元首相解任後の一連の動きを受け、セネガルの外貨建て国債が急落。

(社会)

- 28日、タバスキ(犠牲祭)が祝われた。隣国のマリ情勢により羊の価格が高騰していることが話題になった。
- 29日、ファイ大統領およびソンコ国民議会議長はアブドゥライ・ワッド元大統領の100歳の誕生日を祝福するメッセージを SNS に投稿。

(文化・スポーツ)

- 11日、1984年のスポーツ憲章に代わるスポーツ法の法案が可決。
- 27日、ダカール・ユースオリンピックの競技日程を発表。

カーボベルデ

(出典は Balai、O Democrata、Expresso das ilhas、カーボベルデ政府、A Nação、Voz do archipelago。)

- 5日、政府は、乗客にハンタウイルス感染者が発生しプライア市の沖合に停泊していたクルーズ船ホンディウス号の患者3人の国外移送を発表。
- 6日、政府は、ホンディウス号の乗客3人がスペイン等へ医療搬送され、同船もカーボベルデ領海を離れる旨発表。
- 7日、国民議会選挙に向け各政党が公約を発表。
- 8日、政府は「デジタル・アジェンダ2035」を閣議決定し、AI推進等による国家デジタル化戦略の強化に着手。
- 13日、政府は、「2035年までのカーボベルデの食料・栄養安全保障および持続可能な食料システムに関する国家戦略(ENSANS-2035)」を承認。
- 17日、国民議会選挙が実施された。
- 17日夜、国民議会選挙の暫定結果が発表され、カルヴァーリョPAICV党首が同党の勝利を宣言。与党MpDのコレイア・エ・シルヴァ首相は敗北を認め党首辞任を発表。
- 20日、MpDのヴェイガ元大臣が次期党首選への立候補の意向を表明。
- 21日、国家選挙管理委員会(CNE)がECOWASとCPLPから派遣された選挙監視団による報告書を公開。両監視団が平和的な選挙運営を評価。
- 21日、国家税収局(DNRE)は2025年の税収・関税収入が662億5,200万エスクードとなり、目標を大幅に上回ったと発表。
- 29日、CNEが国民議会選挙の最終結果を発表。PAICV37議席で第1党となった。MpDは33議席、UCIDは2議席獲得。
- 28日から30日、プライア市で第1回大西洋クレオール文化会議が行われ、ネーヴェシュ大統領が出席。

ガンビア

(出典は The Point、ガンビア大統領府、ガンビア外務省。)

- 6日、財務省と中央銀行はIMFミッションと経済政策および成長見通しについて協議。
- 8日、英国籍のハケット氏が旧ジャメ政権下の人道犯罪捜査・訴追を担う特別検察官に就任。
- 13日、バロウ大統領はオランダ大使と会談、農業・経済・海事分野等での協力強化を確認。
- 13日、在米ガンビア大使館とニューヨークのガンビア人コミュニティが意見交換会を開催。
- 19日、ニエ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣がポーランド、リビア、ドイツ、国連、UNDP代表らと相次いで会談し、二国間・多国間協力の強化や教育・安全保障・移民・民間投資分野等での連携推進を協議。
- 22日、ガンビア及びナイジェリア交通安全機関が交通事故防止協力協定を締結。
- 29日、チャム国防軍参謀総長が辞任、ゴメス少将が代行参謀総長に就任。
- 30日、ファイ・セネガル大統領がガンビアを公式訪問、バロウ大統領と会談を実施。

ギニアビサウ

(出典はギニアビサウ外務省、ECOWAS、Jeune Afrique、Radio Capital FM、O Democrataほか。)

- 1日、政府は6月に第4回国勢調査を実施すると発表。
- 5日、ギニアビサウ当局とIMFは、拡張信用供与枠組みに基づく第11回審査について職員レベル合意に達し、目標達成を評価した上で約160万ドルの追加融資が可能となる見通しを発表。
- 13日から15日、政府と国連及び開発パートナーは「世界的な経済危機の影響とギニアビサウの国家レジリエンス強化に関するハイレベル戦略対話」を開催。
- 14日、ECOWASはギニアビサウ安定化支援ミッション派遣部隊へのメダル授与式を開催。
- 19日、ペレイラPAIGC党首はカーボベルデ国民議会選挙でのPAICV勝利を祝福。
- 20日、ンタ暫定大統領は、相次ぐ教員ストライキの対応不足等を理由にバジ国民教育・高等教育・科学研究大臣を解任し、新たにバンジャイ新大臣を任命。
- 26日、ンタ暫定大統領は閣僚数人(外務・国際協力・共同体大臣、法務・人権大臣、環境・生物多様性・気候変動対策担当大臣、国際協力担当国務長官)を刷新。

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの「報道」を当館限りでまとめたもの。

(了)